

平成 24 年度機器・分析技術研究会（大分大会）参加報告

三重大学工学部工学研究科技術部
○梅田直明, 田村雅史、中村昇二、和藤浩
umeda@elec.mie-u.ac.jp

1. はじめに

今年度も機器・分析技術研究会が大分大学にて平成 24 年 9 月 6 日～7 日の日程で開催された。本研究会 197 名の参加者のうち三重大学工学部・工学研究科技術部から 4 名が発表参加したため、参加報告を行う。

2. 研究会内容

本研究会の 1 日目は特別講演、ポスター発表、2 日目は口頭発表というプログラムで行われた。

特別講演は「関あじ」「関さば」を科学するという題目での食に関するめずらしい研究内容を聴講することができた。詳しい内容は割愛させていただくが、関あじ・関さばという地元地域に密着した研究であり、魚の処理の仕方により死んだ後の魚の鮮度に違いがでてくるということを証明する興味深い講演であった。

ポスター発表はポスター A（前半）、ポスター B（後半）に分けて 54 件の発表があり、常時満員の会場で活発な質疑・応答が行われた。三重大学からは梅田直明『XPS(PHI Quantera SXM)の紹介と運用実績について』、田村雅史『三重大学技術職員の海外研修』、中村昇二『新病棟建設に伴う放射性物質の作業環境測定デザイン』、和藤浩『第四回「夏休みものづくり・体験セミナー」開催における委員会活動について』という内容で各自発表を行った。

口頭発表は A 会場、B 会場の 2 つの会場が設けられて 27 件の発表があり、研究に関する技術発表から各装置による測定の紹介やトラブルの報告、昨年の震災の影響からか災害対策についての内容など多岐にわたった。

3. おわりに

今回、個人的に初めて大分大学を訪れての感想は自然に囲まれた場所にあり、また、敷地も十分に広いため落ち着いて教育、研究ができる恵まれた環境という印象を受けた。本大会は案内がすばらしく、参加者が迷わないように最寄り駅への案内員配置や分かり易い案内表示の設置など配慮していただき本大会実行委員会の方におかれましてはこの書面をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成 24 年度 機器・分析技術研究会大分大会	
9 月 6 日 (木)	
【開会式】工学部大講義室(104号講義室)	13:00-13:30
【特別講演】工学部大講義室(104号講義室) 「関あじ」「関さば」を科学する 大分大学 教育福祉科学部食物学研究室 望月 聡 教授	13:30-14:30
【技術研究会開催案内】工学部大講義室(104号講義室)	14:30-14:50
【ポスター発表】産学官連携推進機構 2階セミナー室 ポスターA (講演番号奇数) ポスターB (講演番号偶数)	15:00-15:45 15:45-16:30
【情報交換会】レンブラントホテル大分	18:30-20:00
9 月 7 日 (金)	
【口頭発表】A会場:工学部大講義室(104号講義室) セッション1 セッション2 セッション3 セッション4	9:00-10:15 10:30-11:45 13:00-14:00 14:15-15:00
【口頭発表】B会場:工学部知能情報/応用化学棟 1階107号講義室 セッション5 セッション6	9:00-10:15 10:30-11:45
【閉会式】工学部大講義室(104号講義室)	15:00
【地域代表者会議】	15:30